

さらに, 최 현배 (Choe 1978) は以下の例をあげ、動詞を「動詞 -게 ge + 되다 doeda」形式にすることによって受動の意味をもつようになり、「-게 ge + 되다 doeda」を受動文にする文法要素であるとしている³。

- (3) 그녀 는 어느 기도원 이란 곳 으로 옮겨지게 되었다.
 Geunyeo neun eoneu gidowon iran gos euro omgyeojige doeotda.
 彼女 は ある 祈禱院 という 所 に 移される ge なった
 彼女はどの祈禱院という所に移されるようになった。

一方, 이정택 (李 1992) は, (3) で受動の意味が現れるのは「-게 ge + 되다 doeda」によるのではなく、動詞が受動をその固有の意味として持っているからであるとしている。また、以下の例をあげ、使役文である (4) 「-게 ge + 하다 hada」に対応する (5) 「-게 ge + 되다 doeda」は受動文であるとしている。

- (4) X 가 박 실장 마저 회사 를 떠나게 하는 군.
 X ga bak siljang majeo hoesa reul tteonage haneungun.
 X 가 박 室長 さえ 회사 を やめる ge 하는
 X が朴室長さえも会社をやめさせる。

- (5) 박 실장 마저 회사 를 떠나게 되는 군.
 Bak siljang majeo hoesa reul tteonage doeneungun.
 박 室長 さえ 회사 を やめる ge 되는
 朴室長さえ会社をやめることになる。

2. 「되다 doeda」の意味と用法

「되다 doeda」の意味は、『우리말 큰사전』(1991)、『最新ハングル大辞典 우리말 큰사전』(1994)、『국어 대사전』(1991)、『朝鮮語大辞典』(1986)を参考にすると、次のようにまとめられる。

- ①完成される、成される ②及ぶ ③変わる、変化される ⑤年をとる ⑥始まる
 ⑦経る、経過する ⑧構成される ⑨よい、大丈夫だ ⑩(結果を)もたらす

次は「되다 doeda」が現れる三つの構文をあげる。本稿は、その中で<C. 動詞 - 게 ge + 되다 doeda>について検討する。

³ 「移される」のほか、「奪われる」、「取られる」、「失う」などの動詞が例としてあげている。

A. 名詞 -이 i/가 ga⁴ + 되다 doeda (名詞-に+なる)

(6) 太郎 가 선생님 이 되었다.

Tarou ga seonsaengnim i doeotda

太郎 が 先生 が 「なる」の過去形

太郎が先生になった。

B. 形容詞 -게 ge + 되다 doeda (イ形容詞-く+なる、ナ形容詞-に+なる)

(7) 나무잎 이 빨갭게 되었다.

Namusip i ppalgake doeotda.

木の葉 が 赤い ge 「なる」の過去形

木の葉が赤くなった。

C. 動詞 -게 ge + 되다 doeda (動詞-に+なる)

(8) 太郎 가 걸게 되었다.

Tarou ga geotge doeotda.

太郎 が 歩く ge 「なる」の過去形

太郎が歩くようになった。

3. 動詞 -게 ge 되다 doeda

「되다 doeda」の前に動詞がくる場合、「動詞+게 ge 되다 doeda」(以下、<되다 doeda 構文>とする)の前にくる動詞は自動詞でも他動詞でもよい。このように<되다 doeda 構文>は、様々な文法書および辞書などで日本語の「～ようになる」という意味をあらわすとしている。しかし、<되다 doeda 構文>は日本語の「～ようになる」という表現よりも多様な意味を持つと思われる。

3. 1 <되다 doeda 構文>

(9) 아기 가 걸었다.

Agi ga georeotda.

赤ちゃん が 歩いた

赤ちゃんが歩いた。

⁴「ガ格体言」に当たるもので、「이 i/가 ga」(日本語の「ガ」に当たる)あるいは「은 eun/ 는 neun」(日本語の「ハ」に当たる)という助詞のことである。

- (10) 아기 가 걷게 되었다.
Agi ga geotge doeeotda.
赤ちゃん が 歩く ge なった
赤ちゃんが歩くようになった。

(9) は事態 (主語の行為) を淡々と述べているのに対して、(10) は同じ「歩く」を意味する動詞を <되다 doeda 構文> にすることで、「歩く」ことだけでなく歩けるまでに成長したという意味までも含む表現となる。すなわち <되다 doeda 構文> という形式によって、「歩く」行為が行われるように至った原因あるいは理由があることが考えられるのである。また、(10) は「赤ちゃん」が生まれてすぐは「歩けなかったが、やっと歩けた」という状態変化を表すこともできる。しかし、「赤ちゃん」自身に歩こうとする気持ちがあったかどうかは曖昧である。ここで「赤ちゃん」を大人である「太郎」にしてみる。

- (11) 太郎 가 걸었다.
Taro ga georeotda.
太郎 が 歩いた
太郎が歩いた。

- (12) 太郎 가 걷게 되었다. (= (8))
Taro ga geotge doeeotda.
太郎 が 歩く ge なった
太郎が歩くようになった。

(12) の「太郎」は、何らかの理由で「歩けなかったが、歩けるようになった」という意味を表していて、不可能であったことが可能になったという意味を含んでいる。また、この解釈だけでなく、太郎は歩こうとしなかったが、何らかの事情によって歩いたという意味としても捉えることができる。後者の場合は(12)も日本語にすると、「太郎が歩いた」で、(11)の日本語訳と同じ文になってしまうのである。次は、「太郎が歩く」という行為を引き起こす何らかの事情を具体的に表す内容を入れた例をあげる。

- (12a) 太郎 는 차 가 없어서 걷게 되었다.
Taro neun cha ga eobeoseo geotge doeeotda.
太郎 は 車 が ないので 歩く ge なった
太郎は車がないので歩いた。

(12b) 太郎 는 경치 좋은 해변 을 걸ge 되었다.
 Taro neun gyeongchi joheun haebyeon eul geotge doeotda.
 太郎 は 景色 いい 海沿い を 歩く ge なった
 太郎は景色のいい海沿いを歩いた。

まず(12a)の日本語の訳文では、太郎が自分の意図で「歩く」行為を行うという意味(歩くしかなかった)であるのに対して、韓国語の普通の文(<되다 doedaなし構文>)は、太郎自身の心からわいてきた気持ちではなく「車がない」という理由によって「歩く」行為を行うのである。(12a)を<되다 doedaなし構文>にしても<仕方なく、やむを得ず>という意味になる場合はあるが、<되다 doeda構文>にすることで行為者⁵である「太郎」は、「車がない」という事情によって「歩く」意図が生じると考えられる。

<典型的な動作主>が意志・意図を持って行為を行うのに対して、<되다 doeda構文>の場合は行為者自身のそれを問わないことから意志的な動作の主体である<典型的な動作主>ではないと言える。このように(12a)では、<仕方なく、やむを得ず>という表現が文の中になくても、その意味が現れる。また(12b)を<되다 doedaなし構文>にした場合は、積極的に「歩く」行為が行われる意味を表すのに対して、<되다 doeda構文>は「景色がいい」という外的な事情によって「歩いた」のである。結果的には「歩いた」が、「景色がいい」ということによって自然に「歩く」という気持ちがわいてきたことを表している。

このように<되다 doeda構文>にすると、行為者の行為は「車がない」、「景色がいい」などという何らかの事情によるものであるために、<되다 doedaなし構文>とは異なる意味を表すことになる。(12b)は、(12a)のようなく仕方なく、やむを得ず>の意味ではなく、日本語の場合と同じく「景色がいい」ことによって「歩く気が起こった」という意図がもたらされるのである。(12b)の<되다 doeda構文>での行為は、「景色がいい」という原因によって行為が引き起こされると考えられる。

ここまでをみると、<되다 doeda構文>での行為は、意図がどのようにして生じたのかという原因が外的事情になって行われることから、意図をもって積極的に行われる行為ではないので、<能動性が排除された表現>であると考えられる。またその行為は何らかの事情が原因となって引き起こされることから「ナル」的表現と言えるだろう。次の3.2では、行為を引き起こす力である<外的事情>について考えてみる。

3. 2. 行為を引き起こす力である<外的事情>

<되다 doeda構文>が成立するためには、それに当てはまるような何らかの事情が存

⁵ ここでは、ただ単に行為を行う者という意味で用いることにする。

在する方がいい。存在しないと非文とは言えないが、意味的に不十分な感じがするのである。何らかの事情に当たる表現がないと話者の伝えたい意味がはっきりと伝えられなくなるのである。つまり、<되다 doeda 構文>における何らかの事情は、文として落ち着いた表現とするために必須である。

行為動詞は意図をもって行われる[意図 → 行為]が、<되다 doeda 構文>は典型的な行為とは違って、意図がどのように生じたかという原因までも含む表現である[原因 → 意図 → 行為]と思われる。

ここからは意図がどのように生じたかを表す<外的事情>を<仕方なく>、<目的>、<外的理由>、<あやまって>の4つに分けて詳しく検討する。しかし、<外的事情>というのは動詞⁶の種類によって使い分けるのではなく、<되다 doeda 構文>にすることで、行為が内発的に行われなかったことを明示すると考えられる。また、<되다 doeda 構文>全体の共通点は、<外的事情>が原因となって意図が生じることから<能動性の排除>された表現であると考えられる。それぞれの例を挙げながら、<되다 doeda 構文>の本来的に持つ意味・性質を探る。

3. 2. 1. <仕方なく、やむを得ず>

その意味からも分かるように、「仕方なく、やむを得ず」というのは行為者の意図が分からないあるいはそれに反してことが行われるということである。文の中にはその表現が現れないが、<되다 doeda 構文>にするだけでその意味が生じるのである。

- (13) 太郎는 내일이 시험이라서 책을 피게 되었다.
 Taroneun naeiri siheomiraseo chaegeul pyeoge doeetda.
 太郎は 明日が 試験なので 本を 開く ge なった
 太郎は(勉強したくなかったが)明日が試験なので(仕方なく)本を開いた。

(13)では、日本語の場合は「本を開いた」という意味しか表れないが、韓国語の文では「太郎」の勉強したくないという気持ちまでも表されるのである。

- (14) 太郎는 자리가 없어서 싫어하는 학생 옆에 앉게 되었다.
 Tarouneun jariga eobeoseo sireohaneun haksaeung yeope ange doeetda.
 太郎は 席が なくて きらいな 学生 隣に 座る ge なった
 太郎は(空いている)席がないので(仕方なく)きらいな学生の隣に座った。

⁶ 本稿では、行為を表す動詞を中心に考察する。

(15) 太郎는 학교에 갈 시간이 돼서 텔레비전을 끄게 되었다.

Taroneun hakgyoe gal sigani dwaeseo tellebijeoneul kkeuge doeeotda.

太郎は 学校に 行く 時間が なって テレビを 消す ge なった

太郎は学校に行く時間になったので(仕方なく)テレビを消した。

(16) 선생님은 학생들이 떠들어서 한 대씩 때리게 되었다.

Seonsaengnimeun haksaeundeuri tteodeureoseo han daessik ttaerige doeeotda.

先生は 学生たちが 騒いだので 一回ずつ 叩く ge なった

先生は学生達があまりにも勉強しないので(仕方なく)一回ずつ叩いた。

(13) から (16) については、日本語訳では文の中に「仕方なく」という表現がなければ行為者の意志的な行為の意味を表すことも可能であるのに対して、韓国語の文では「仕方なく」に当たる「할 수 없이 hal su eopsi」という表現がなくても、<되다 doeda 構文>にするだけで<能動性の排除された>表現であることがわかる。また、<能動性の排除された>表現を支えているのが<外的事情>である。(13)では「明日の試験」、(14)では「空いている席がない」、(15)では「学校に行く時間」、(16)では「学生達が騒ぐ」という<外的事情>によって行為者の行為が引き起こされている。一方、(13)から(16)を<되다 doeda なし構文>にした場合は、日本語と同じく「仕方なく」などの表現がないと意志的な行為を意味するのである。

3. 2. 2 目的

目的と理由・原因とは意味の上で似ているところがある。日本語の「ため」は、目的および理由・原因を表していることから分かるだろう。奥津(1986)では、目的の副詞を含む文を「目的構文」とし、次のような四つの制限をあげている。

- 1) 補文の主語と主文の主語とは同一でなければならない。
- 2) 補文・主文いずれの主語も有生(+animate)のもでなければならない。
- 3) 補文および主文の動詞は、有生の主語による意志的動作を表すもの(+volitional)という素性を持つものでなければならない。
- 4) 補文のテンスは未完了形でなければならない。

ここで、「目的」と分類した<되다 doeda 構文>は、上記の条件を全部満たしている。それを満たしているのは、あくまでも動詞の意味までであり、<되다 doeda 構文>を使って表現することによって行為者が行う動作自体は行為者自身の内発的な意図ではなく外的要因によって生じることを表しているのである。ここでも「仕方なく、やむを得ず」

という意味と重なる場合もあるが、<外的事情>として取り上げている「目的」の場合はその意味が薄まっていて、行為者の意図しなかったことを表す。また「目的」とは言っても、<되다 doeda 構文>を用いることによって行為者の行為は、行為者自身の意図によって行われるというよりは「目的」が原因となって行われるということを表現する。

- (17) 太郎는 건강을 위해서 운동장을 달리게 되었다.
 Tarouneun geongangeul wihaeseo undongjangeul dallige doeotda.
 太郎は 健康を ために 運動場を 走る ge なった
 太郎は健康のために運動場を走った。

「太郎」は「走る」ことをしようとしたのではないが、「健康のために」という目的がその動作を引き起こす力になり「走る」ことを行うのである。日本語の訳通りにする場合 (<되다 doeda なし構文>にする場合) との違いは、<되다 doeda 構文>にすることによって行為者の「いやがりながらも」という気持ちまでを表現することができるのである。

- (18) 太郎는 학교에 가기 위해서 버스를 타게 되었다.
 Tarouneun hakgyoe gagi wihaeseo beoseureul tage doeotda.
 太郎は 学校に 行く ために バスを 乗る ge なった
 太郎は学校に行くためにバスに乗った。

- (19) 타로우는 마음을 안정시키기 위해서 음악을 들게 되었다.
 Tarouneun maemeul anjeongsikigi wihaeseo eumageul deutde doeotda.
 太郎は 心を 安定させる ために 音楽を 聞く ge なった
 太郎は心を安定させるために音楽を聴いた

- (20) 太郎는 커피를 마시기 위해서 물을 끓이게 되었다.
 Tarouneun keopireul masigi wihaeseo mureul kkeurige doeotda.
 太郎は コーヒーを 飲む ために 水を 沸かす ge なった
 太郎はコーヒーを飲むためにお湯を沸かした

(17)～(20)は「～のために」という目的を挙げている。(17)の「太郎は自分の健康のために走った」では、太郎による行為ではあるが、<外的事情>によって走ったという<非能動>を表している。(18)も同じように自分のために行った行為ではあるが、その行為を引き起こした力は太郎自身ではなく、「学校に行く」という目的である。(19)は「心を安定させる」目的が「音楽を聴く」行為を、(20)では「コーヒ

一を飲む」という目的が「お湯を沸かす」行為を引き起こしている。日本語訳では、その「目的」のために行う行為になるので能動的な意味を表すのに対して、韓国語の場合の行為は、内発的な意図によるものではなく＜外的事情＞によって意図が生じて行われることから＜能動性が排除された＞表現となる。

3. 2. 3 外的理由

「外的理由」とは、行為者自分からのコントロールできないことが多い。例えば、(21)の「おなかが空く」、(22)の「面白い」のようなことは、行為者である「太郎」が感じることはあるが、太郎自分ではコントロールできないことである。(21)の「食べる」行為は、「おなかがすく」という＜外的理由＞によって行われ、またその意図をも生じてしまうと思われる。

(21) 太郎는 배가 고파서 밥을 먹게 되었다.
 Tarouneun baega gopaseo babeul meokge doeeotda.
 太郎は おなかが すいて ご飯を 食べる ge なった
 太郎はおなかが空いたのでご飯を食べた。

(22) 太郎는 책이 너무 재미있어서 밤새도록 읽게 되었다.
 Tarouneun chaegi neomu jaemiisseoseo bamsaedorok ikge doeeotda.
 太郎は 本が とても 面白くて 一晩中 読む ge なった
 太郎は本があまりにも面白くて一晩中読んだ。

(23) 太郎는 백화점이 세일을 해서 옷을 마음껏 고르게 되었다.
 Tarouneun baekhwajeomi seireul haeseo oseul maeumkkeot goreuge doeeotda.
 太郎は デパートが セールをして 服を 思い切り 選ぶ ge なった
 太郎はデパートがセールをして服を思い切り選んだ。

(24) 太郎는 정전이었다가 불이 들어와서 촛불을 끄게 되었다.
 Tarouneun jeongjeonieotdaga buri deureowaseo chotbureul kkeuge doeeotda.
 太郎は 停電だったのが 電気が 入ってきて ろうそくを 消す ge なった
 太郎は停電だったが電気がきたのでろうそくを消した。

(25) 太郎는 비가 와서 우산을 펴게 되었다.
 Tarouneun biga waseo usaneul pyeoge doeeotda.
 太郎は 雨が きて 傘を 開く ge なった
 太郎は雨が降ったので傘をさした。

行為者自身の力でコントロールができない(23)の「デパートのセール」、(24)の「電気がきたので」、(25)の「雨が降ったので」が原因とする「外的理由」によって行為が行われるのである。

3. 2. 4 <あやまって、不注意で>

この「あやまって、不注意で」という表現が文の中になくても<되다 doeda 構文>にするだけで、意図していなかった動作が自然に起こりうる表現になる。行為者は何も意図しなかったのに「手が勝手に」という意味も表している。

- (26) 太郎는 컴퓨터를 사용하고 있었는데 자료를 지우게 되었다.
Taroneun Keompyuteoreul sayonghago isseotneunde jaryoreul jiuge doeeotda.
太郎は パソコンを 使って いたが 資料を 消す ge なった
太郎はパソコンを使っていたが(あやまって)すべての資料を消した。

行為動詞による行為は、意図によって行われその結果までを含むが、(26)の「資料を消す」という行為は「消す」意図をもって行ったことを表すのではない。意図もって行われた「パソコンを使う」という行為を行うことによって、意図しなかった「資料を消す」結果が生じるのである。

- (27) 太郎는 고기를 썰다가 손가락을 베게 되었다.
Taroneun gogireul sseoldaga songarageul bege doeeotda.
太郎は 肉を 切っていたが 指を 切る ge なった
太郎は肉を切っていたが(あやまって)指を切った。

- (28) 太郎는 샌드백을 치고 있다가 옆 사람을 때리게 되었다.
Taroneun saendeubaegeul chigo itdaga yeop saram-eul ttaerige doeeotda.
太郎は サンドバックを 叩く いたが 隣の 人を 殴る ge なった
太郎はサンドバックを叩いていたが(あやまって)隣の人に当たった。

ここでも、3. 2. 1の「仕方なく」と同じく「あやまって」という表現がなくとも<되다 doeda 構文>を用いることで、行為者の能動性はなくなる。その際、(26)では「すべての資料を消す」、(27)では「指を切る」、(28)では「隣の人を殴る」という<外的事情>によって行為が引き起こされる。要するに、意図的に行われた[行為A]が原因となって、意図していなかった[行為B]が生じてしまうのである。また、(28)の「殴る」という行為は自分から意図しようとしなくても自然に起こることではないが、少なくとも「隣の人を殴る」という意図はなかったのにもかかわらず、その行為をして

しまうという意味で自分の意図に反していると言える。

このように、<되다 doeda 構文>にすると「あやまって」の意味が生じる表現は、日本語の「～てしまう」に似ている。鈴木（1972）は、感情・評価的意味としての「～てしまう」について「好ましくない結果になって残念だ」、「思いがけない結果になって照れくさい」などのように述べている。「好ましくない結果」、「思いがけない結果」ということから、話し手の意図とは関係なくいつの間にか出来事が起こったという<能動性が排除された>表現である。

4. 終わりに

韓国語の<되다 doeda 構文>は、行為を引き起こす<外的事情>によって意図が生じ、その結果、行為が行われるという意味を表すこと（3. 2. 1～3. 2. 3）、また、意図的な[行為 A]をすることで意図しなかった[行為 B]が行われる（3. 2. 4）ことから能動性の排除された表現としてまとめる。まず、行為動詞の意図をもたらす行為を引き起こす力となる<外的事情>と称するものが原因になるとし、3. 2. 1は<仕方なく>、3. 2. 2では<目的>、3. 2. 3では<外的要因>と分けて、行為の結果は原因によって意図が生じ現れるとしている。また3. 2. 4<あやまって>で行われる行為は、意図した[行為 A]を行うことが原因となって[行為 B]の結果をもたらすことがわかった。これらに共通しているのは意図のあり方が、典型的な動作とは違う点であると言える。

受動態「되다 doeda」についての日韓対照研究はあるが、<되다 doeda 構文>についての先行研究はほとんどないに等しいので、今後の研究対象にしたい。また、今回は行為を表す動詞を中心に考察しているが、様々な動詞および形容詞、名詞が先行する<되다 doeda 構文>は今後の課題にする。

参考文献

- 池上嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学』 大修館書店
- 奥津敬一郎 (1986) 『いわゆる日本語助詞の研究』 凡人社
- 生越直樹 (1982) 「日本語漢語動詞における能動と受動—朝鮮語 hata 動詞との対照」『日本語教育』48号
- _____ (2008) 「現代朝鮮語における様々な自動・受動表現」 生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一 (編) 『ヴォイスの対照研究 東アジア諸語からの視点』 くろしお出版
- 尾上圭介・西村義樹 (1997) 「国語学と認知言語学の対話 I—主語をめぐる」『言語』26-12 大修館書店
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論-言語と認知の接点-』 くろしお出版
- 國廣哲彌 (1982) 『意味論の方法』 大修館書店
- 久野暲 (1983) 『新日本文法研究』 大修館書店
- 須賀一好・早津恵美子 (1995) 『動詞の自他』 ひつじ書房
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房
- 鈴木一彦・林巨樹 (1984) 『研究資料 日本文法8 構文編』 明治書院
- 塚本秀樹・鄭相哲 (1993) 「韓国語における固有語動詞の受身文について」『言語』11
- _____ (1994) 「韓国語における漢語動詞の受身文について」『朝鮮学報』10
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろしお出版
- 中右 実・西村義樹 (1998) 『構文と事象構造』 研究社出版
- 仁田義雄 (1998) 「意志動詞と無意志動詞」 『言語』
- 益岡隆志 1997 『新日本文法選書2 複文』 くろしお出版
- 丸田孝志・林憲燦 (1997) 「漢語+になる」の用法と特徴 『朝鮮学報』4
- 森田卓郎 (1988) 『日本語動詞述語文の研究』 明治書院
- 鷲尾隆一 (2001) 「하다・되다を日本語から見る」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究 研究報告 平成12年度 別冊 「하다」と「되다」の言語学』筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織
- 김기혁 (1995) 『국어 문법 연구 - 형태 통어론-』 박이정 출판사
- 김동식 (1984) 「동사 ‘되다’ 연구」 『국어국문학』 92
- 김영태 (1997) 『현대국어 보조용언 연구』 문창사
- 남기심・고영근 (1985) 『표준 국어문법론』 탑출판사
- 서정수 (1996) 『현대 국어문법론』 한양대학교 출판원
- 이상억 (1999) 『국어의 사동・피동 구문 연구』 집문당
- 이정택 (1992) 「용언 ‘되다’ 와 ‘피동법’」 『한글』218 한글학회
- _____ (2004) 『현대 국어 피동 연구』 박이정 출판사
- 임홍빈 (1976) 「副詞化와 対象性」 『国語学』4 国語学会

- 최규수 (2005) 「되다'와 '지다'의 피동성에 관하여」
최현배 (1978) 『우리말본』 정음문화사
許明子 (2004) 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』 ひつじ書房

辞書

- 『우리말 큰사전』 (1991) 한글학회 지음 어문각
『最新ハングル大辞典 우리말 큰사전』 (1994) ハングル学会編 白帝社
『국어 대사전』 (1991) 한국어 사전 편찬회편 삼성문화사
『朝鮮語大辞典』 (1986) 大阪外国語大学朝鮮語学科編 角川書店

On the Agent Defocusing Function of the Korean 되다 doeda Construction
SOK, Hyeongyeong

Keywords: agentivity, external circumstances, force dynamics

Abstract

Of the three constructions involving "되다 doeda", which corresponds in meaning to Japanese "naru", this paper focuses on the variant in which doeda is preceded by a verb. I argue that the main function of this construction is to defocus the agentivity of the action denoted by the verb on the basis of the observation that its felicitous use requires that external circumstances be responsible for the agent's intention to perform that action.

(そく・ひよんぎょん 東海大学講師)